

看護学生のヘアドネーションの認知度と普及方法の検討

宇都沙霧西彩花

杏林大学保健学部看護学科看護養護教育学専攻4年

目的

ヘアドネーションとは、寄付された髪の毛を使用して医療用ウィッグを無償提供するボランティア活動で、疾患による脱毛のある方へのアピアランスケアである。しかし、実施できる理美容室は限られており、看護系大学でヘアドネーションについての講義を開講しているところは数校である。本研究は、看護学生のヘアドネーションの認知度を調査し、多くの人にヘアドネーションを広め、医療用ウィッグを求めている人が簡単に手に入るような社会実現に向けたヘアドネーション普及のための方策を検討することを目的とした。

方法

A大学に所属する看護学生46名を対象に、文献検討をもとに独自のアンケートを作成し、インターネットリサーチ（Web調査）を無記名で実施した。データは、各調査項目について記述統計を行い、ヘアドネーション普及方法についての自由記載の回答はカテゴリー化した。本研究は杏林大学保健学部倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：2020-10）。

結果

研究対象者46名のうち38人の回答を得た。回収数38（回収率82.6%）、有効回答数38であった。ヘアドネーションの認知率は97%で、大学の教員から聞いた、友達がやっていた、テレビで見たなど、身近な人やメディアから情報を通して知っていた。一方、ヘアドネーションの実施率は5.3%で、「髪を伸ばすこと」や「髪を染められないこと」

など、68%が実施の困難さを感じていた。ヘアドネーションの普及方法については、【メディアを活用する】【身近な人から広める】【条件の見直しをする】【美容院・病院における宣伝】の4つにカテゴリーに分類された。

考察

大学でヘアドネーションの話聞く機会のある看護学生の調査結果と比較すると、認知率に差は生じていないが、ヘアドネーションの実施率が増加することが示された。ヘアドネーションを普及する方法としては、内的動機づけをするために、教員や友人等の身近な人からの情報は興味関心を与え印象に残ること、さらに、テレビなどのマスメディアよりSNSで取り上げることが一端を担うことが明らかとなった。さらに、ヘアドネーションを実施する団体によって条件が異なることも、知識のばらつきをもたらしていると示唆された。

謝辞

この度、第10回学生リサーチ賞を受賞させて頂き大変光栄に存じます。選考委員の先生方ならびに関係者の方々に厚く御礼申し上げます。更に、本研究を行うにあたりご協力頂きました学生の皆様、基礎看護学研究室の先生方に深く感謝いたします。

参考文献

- 1) 藤間勝子, 野澤桂子: がん患者のアピアランス支援; 外見と心に寄り添うケア4 アピアランススキル①脱毛における頭皮への対応—ウィッグについての基礎知識—. がん看護20: 79-82, 2015.